
また明日。

やさぐれ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

また明日。

【著者名】

やぢぐれ

NZP-1

NZ8532C

【あらすじ】

高校2年生の華子。勉強に恋に恋こじりたいお年頃。そんな彼女の悩みは、幼馴染みの浩一。浩一に振り回される華子に平和な日常は果たしてくるのか。

第一話・おはよう

晴れ渡つた空。雲一つない。でも、私の心は曇り空。これも全てア
イツのせいだ。

私には、幼稚園から一緒に幼馴染みがいる。顔はまあ、カッコいい。
勉強もスポーツもできる。ただ、…………とてつもなく「ナレシ
スト」なんです。

そう、とてつもなく。朝7時。

『起きる……華子。』

うつ、うるさい。そしてまた来た。私の睡眠を邪魔するこの男こそ、
幼馴染みの浩一であります。『華子、何時まで寝てる気だ……そん
なことしてお前は華子のままなんだ。』

「うるさい。休みの日に何時まで寝てようと私の勝手でしょ！？そ
れと全国の華子さんに謝れ！……」

つて、聞いてない。鏡見てるし……。はあ。

『溜め息なんかついて。不細工な顔が更に不細工だぞ。見る俺のこ
の美貌。今日も一段と美しい。』

「用はそれだけ！？！？毎日いい加減に、って聞け……その5分
おきに鏡見るのやめる！……何回見たってかわりやしねよ……」『
変わるだろ！……いいか、俺の美貌は隨時美しく、そして
「おかーさん。朝ごはんまだー？？』

『はな』——！勝手に行くんじゃなーい！……
あんなバカの話聞いてたら頭痛くなるつての。『華子……グハツ、

「つるやーー！……近所迷惑だ！！」「ふつ、一発殴つてやった。鼻から血だしてやんの。『何するんだ！！俺の顔に。病院行かなきゃ！』

『..』

「こいつそ頭の病院に行け。そして一度と家に来るな。」
『覚えてりよーー..』

何をだよ。……とつあえずじ飯たべよ。

第一話・おはよう（後書き）

ギャグ連載をはじめてみました。二話ぐらいで終わるかもしませんが、続きを読むだけでいただけたら幸いです。

第一話・今日も一日頑張る。

お久しぶりです。今日は学校です。

「おはよう。」今、挨拶してくれたのが親友の相沢マキです。小さくてカワイイ女の子です。

「今日も浩一くんカッコイイね。」ただ、ちょっと変わってるけど。

『ねえ、奴のどこがカッコイイの！？！？授業中ずっと鏡見てるような奴だよ！…』

「そこがまたいいの。」田開いてますか。

「華子。どうした俺を見つめて。俺がそんなに美しそうか。」「寝言は寝て言え。」あーウザイ。誰かコイシビツにかしてよ。

「今日もカッコイイよ。浩一くん。」

「相沢はわかつてゐるな。このバカは頭悪くて。」

『ちょっとーーあんたの頭よりマシですから。なんか腹立つんですけどー？』イライラする。『ううこう時は…………あっ、立花先輩！！

廊下に立花先輩が見えます！！すいません。興奮してしまいました。立花先輩とは、バスケットボール部のエースでちょーカッコイイのです。

「華ちゃん、また立花先輩見てるー。」おいおいこいつなよマキ、照れるだろうが。

「華子。お前はやつぱり田が悪いな。俺の方が数倍美しいだろ。」

『先輩をお前みたいな変態と比べるなーー！ってか、私の田じやなくて、お前の頭が悪いんだよ！…』

「本当にお前は昔から照れ屋で困るよ。わかってる。恥ずかしいんだろう。」

えつ、何その前向きな思考。華ちゃん、ついていけないぞ『もつ、いい加減席に戻つて。先生来てるから…』

はあ～、まだなんか言つてゐよ。先生泣いてるし。

よし、アイツの部屋の鏡全部割つてしまへ。

第三話・ひとつと視点をかえて（前書き）

更新遅れてしません。今回は浩一視点で書いてます。

第三話・ひょっと視点をかえて

『鏡よ、この世で一番の美貌浩一様のお皿覚めだ。』ふつ、今田もまた美しすぎる。やーマジで……やつぱつこの角度が……

一時間後。

よし、学校へ行くか。まだ。俺が通るたびに振り返る。なんて罪な美しさ。バコッ、

「何キミ子お婆ちゃんに色田使つてんのだよ……お婆ちゃんビックリしてんでしょう！」「今俺の頭を叩いたこの女は幼馴染みの華子。顔は、家の金魚にそっくりだ。イヤ本当に。ちなみに金魚の名前も「はなこ」だ。

「ねえ、その、鏡とお喋りする癖やめろよ。キモいよ。」「キモいとはなんだ！！いいか、俺の

「ハイハイ。学校つきましたよ。先行くから。」

はあ～。まあ、見てわかる通り華子は俺が好きだが素直になれないらしい。困った奴だ。

「浩一、何してんだ。」

おーこれは俺の親友の祐希。顔は……はんっ、俺の足元にも

「お前今失礼なこと考えただろ！！」失礼も何も、本当の事を言つたまでだ。所詮、お前は俺の引き立て役でしかないのだよ……！「何？？そのバカにしたような顔！？！？親友に向ける顔かよ」『いや、可哀想だなと思つて。』

「華子ちゃん！！」「イツ何とかして……！」

むつ……華子に助けを求めるなんて、アイツは俺の下僕だぞ……！

アイツに命令出来るのは俺だけだ！！

ゲフツヽ

「声でてんだよ！－！誰があんたの下僕じゃ－－－！」

相変わらずいい蹴りいれるじゃないか華子よ。だがな、そんな怒つた不細工な顔を見せていいのは俺だけだからな。祐希を見てみろ、

「今日も凄まじいね。華子ちゃん。」「

「やつだ、祐希君たら。照れちゃうぞ」

一 言めて無いけどね

『

俺以外にそんな笑顔みせるなよ。

俺だけの華子。

第四話・平和を祈りつい—！

お久しぶりです。今日もまた世界の平和を願つ華子でござります。
そして私の周りは戦争です。

「ちょっと、それ私の焼きそばパン！—横から手出してんじゃねえ
よ！—」そう、これはお皿のパン争奪戦。私は今、購買という名
の戦場にいます。

「ちょっと買えた。私は戦利品を持つて教室へ向かう。はずだった。
『華子。ちょうどイイ所に。』全然よくねーよ。寧ろ最悪だ。ここ
はシカトして……

『面そうなの持つてるじゃないか。よーせ。』

「何を言つとるんじやナル野郎！—」聞きました？皆さん！—この男は私が勝ちとった勝利の品を奪おうと！—

「なに勝手に食べてるの！—！？」『イマイチだな。』

「イマイチってなんだYO！—！？私の汗と涙の結晶だよ！—HE
Y浩一、お前の顎粉々にしてやるYO！—」はつ、興奮しすぎて言葉がおかしくなってしまった。「つて、吐き出せ！—今すぐ元の焼
きそばパンにもどせ！—」『ぐつ、苦しい。わかつたから…首…をし
めるな。』

ふん、わかればいいのだよ浩一君。だから鏡を見てないで買つてこ
い！—つと思いを込めておもいつきり鏡を割つてやつた。

『何すんだよ！—俺の美貌を映す相棒になんてことを……』

「お前の鏡より私がブローケン・ハートだよ！—ズタボロだよ！—」

『せひ、置つてきたぞ……』やつと置つてきたかナル野郎。鏡を壊されてそんなに落ち込むのは、お前ぐらいいだよ。ちよつと可哀想だつたかなあー…………

「何だよコレ！？！？金魚の餌？？」「うひの金魚のはなこの餌。分けてやるから有り難く思えよ。』

お母さん、私犯罪者になってしまっかも。

第五話・サヤサヤしてねーーー（前書き）

りゅうじだけ話に展開を。

第五話・モヤモヤしたるや…

『華ちゃん、気持ち悪いよ。』

皆さん、聞きました？彼女これでも私の親友ですよーただ、ちょっと妄想してただけなのに。

「ヒーディよ、ちょっと立花先輩のカノジョになるイメージトレーニングしてただけなのに。」『やつだ〜華ちゃん。冗談は顔だけにして。』

「マキさんー！あんた今サラッとヒーディと言つたよー？ー？」『ウソウソ、冗談だよ。』

【冗談に聞こえないんですけどーー寧ろその笑顔がーーーっ、田が笑つてしませんよー！マキさんー？】

『それに華ちゃんには、浩一君がいるじゃない。』

…………サラッと爆弾発言しましたよーいや、私の耳が遠くなつて、

『あんなに素敵なカレシがいるのに、華ちゃん、誤解だからーーあんなのと付き合つたら體に穴があいてしまーーー！』

それはもう大きな風穴が……

『じゃあ、マキが奪つちゃてもいい？？』

「えつ、うんうんー！好きなだけ奪つちやでーー！」

あれ、今私ちょっと胸がズキッて、

『ウソだよ、ウソ。だからそんな顔しないの。』

「うふ……」やだ、私何か今スッゴイ胸が苦しい。何だろ「うふ……

『華子、不細工な顔して走るんじゃない……』

『……って、マラソンで息苦しいだけじゃい……変な感じになってしまったではないか。クソッ、マキメ。覚えてろよ。

『何、ブツブツ言つてんだ。キシヨ。』

「あ・ん・たのせこだよ、浩一さん……それに鏡を見ながら走るつてどんだけ~」

『は、つこつこ某オカマ口調こーーー。

「あれ、マキメ?』『相沢ならよろしくって、先走つてたぞ。』
本当に覚えてるよ……。『ところで華子、お前そんなに立花がいいのかよ。』『えつ、何急に。』『お前には俺がいるだろ。俺が。』

お兄そーん。鏡見ながら言つても全然なんですが……!
しかもそれ体育の山田(45才)だから!!自分の顔氣にしそぎて
周り見なさず!……ちよつと山田、顔赤くしてドキドキしてるん
ですけどー?ー?キモつ。

あ～早く体育終わんないかな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8532c/>

また明日。

2010年10月28日08時08分発行